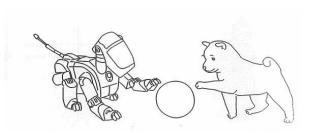
15. AIBO の葬式

ソニー(SONY)から犬のロボット AIBO が初めて発売されたのは 1999年。しかしソニーは 2014年に AIBO の修理をやめてしまった。 AIBO を本物の犬のようにかわいがっている人たちは、かわいい AIBO が故障したら、どうしたらいいのだろうか。

SF はロボットについて、いろいろな もんだい をごうしてきた。 人間はロボットを愛することができるのか? ロボットに 心 はあ



るのか? ロボットは生きているのか? 現代の日本社会では、人々がロボットと深い関係を持つようになった。それによって、こうしたSFの問題に対して、少しずつ答えが出されている。

1999年にソニーは、犬の形のロボット、AIBO を発売した。 AIBO とは、Artificial Intelligence roBOt の略だ。初めに発売された 3000台はすぐに売れて、その後も、たくさんの人がこのロボットのペットを愛するようになった。しかしソニーは、2006年に AIBO の生産をやめて、2014年には修理もやめた。そこに登場したのが、 乗松伸幸さんだ。

乗松さんは、2010 年にソニーを辞めた後、苦いソニー製品を修理する店を開いた。ソニーが AIBO の修理をやめると、乗松さんの 落ちが増えた。古くなった AIBO故障すると、その AIBO の持ち主は AIBO が「病気になった」ように心配する。そして、「病気」の AIBO を「治療」してもらうために、乗松さんの店に来るようになった。

乗松さんにとって、AIBO をit to a company ではなくなった。
ことは単なる修理ではなくなった。
「お客さんたちは AIBO を本当に愛している」と乗松さんは言う。AIBO の持ち主たちは、AIBO に心があると感じている。だから、持ち主たちにとって乗松さんは「医者」なのだ。

がれ みせ 彼の店には、AIBO の持ち主から こんな手紙が届く。



「病気の母は、この AIBO をとてもかわいがっています。なんとか直していただけないでしょうか?」

持ち主が、具合の悪い AIBO の気持ちになって書いたメールもある。

「歩けなくなると、僕は死ぬしかないの?」

修理で直った AIBO を受け取った持ち主が、「大切な家族である AIBO の「命」と「健康」を取り戻してくれて、ありがとうございます」と泣きながら電話してきたこともある。

ソニーは約15万台の AIBO を販売した。苦くなった AIBO は 「老化」して、足がよく動かなくなったりする。乗松さんは 一生懸命直そうとするが、AIBO はもう生産されていないので、新しい部品はない。部品を交換するためには、使われなくなった AIBO、つまり「亡くなった」AIBO の部品を使うしかない。乗松さんの「病院」では、部品交換のための順番を待つ持ち主が増えている。

しかし、乗松さんでも全てのAIBOの「命」を教えるわけではない。どんなに愛されている AIBO にも終わりの時は来る。2015年の17月に、千葉県いすみ市にある光福寺というお寺で、初めて AIBO の葬式が行われた。光福寺の僧侶の大井文彦さんは、「AIBO の葬式はペットの葬式と同じです」と言う。両方とも、たましいが体から離れるのを手伝うものだからだ。

AIBO が人々にこんなに愛されているのは、一時的な流行ではない。AIBO の「医者」乗松さんと AIBO の「僧侶」大井さんは、将来の社会でもっと必要になる仕事を、今の社会でしているのである。

2018年1月に、ソニーは、最初の AIBO よりもっと光に似た新しい AIBO を発売した。今後、社会には、人の形のロボットも登場するだろう。そして私たちは、ロボットともっと親しくなるかもしれない。

そうなれば、乗松さんや大井さんのような人たちがたくさん必要になるだろう。そして、SFが示した問題に対して、現実の社会からさらにいろいろな答えが出てくるだろう。

単語リスト:

葬式(そうしき)Tang lễ
SF(エスエフ)Truyện khoa học viễn tưởng
略(りゃく)Viết tắt
治療(ちりょう)Điều trị
単なる(たんなる)Đơn thuần

取り戻す(とりもどす)Lấy lại 僧侶(そうりょ)Tăng lữ 魂(たましい)Linh hồn 一時的な(いちじてきな)Nhất thời さらに Hơn nữa